



豊後大野市千歳町の酒造会社「藤居醸造」が消毒用アルコールの代替品として使えるアルコール度数 77%のスピリッツ「泰明アルコール 77」を製造、市医師会に 120 本を寄贈しました。

① 同社が消毒用アルコールの代替品を製造するようになった理由は何ですか？

消毒用アルコールの需要が増え、医療関係者などから製造の要望寄せられていたから。

② 高濃度のアルコールをどんな方法で製造していますか？

麦焼酎を再蒸留して度数を高めた。減圧蒸留でほとんどの香り成分や油分を取り除かれ、不純物をほぼ含まないアルコールに仕上がった。

③ 提供を受けた市医師会の反応は？

「消毒液が底をつきそうな医療機関もある。大変助かる」と喜ばれた。

④ この製品が市販される予定はありますか？

医療機関や福祉施設へ優先的に供給し、需要を満たせば市販する予定。

藤居醸造製造

豊後大野市医師会の岡野良文会長（右から2人目）に消毒用に使える高濃度アルコールを手渡す藤居醸造の藤居淳一郎社長（同3人目）＝豊後大野市千歳町の藤居醸造



「地域のため

消毒用アルコールの代替品



藤居醸造が製造した「泰明アルコール77」

新型 コロナ

【豊後大野】消毒用アルコールの需要が増える中、豊後大野市千歳町新殿の酒造会社「藤居醸造」（藤居淳一郎社長）は代替品として使えるアルコール度数77%のスピリッツ「泰明アルコール77」の製造を始めた。28日には市医師会に120本を寄贈した。

豊後大野 医師会に120本贈る

藤居醸造によると、医療関係者などから製造の要望が寄せられていたという。アルコール度数45度以下の焼酎を造る免許しか持っていなかったが、国の特別措置を受け、期間限定で高濃度アルコールを製造できるようになった。麦焼酎を再蒸留して度数を高めた。減圧蒸留でほとんどの香り成分や油分を取り除かれ、不純物をほぼ含まないアルコールに仕上がった。医薬品や医薬部外品ではないものの、手指消毒などに使えるという。市医師会への贈呈式は同社であり、泰明アルコール77を受け取った岡野良文会長(69)は「消毒液が底をつきそうな医療機関もある。大変助かること礼を述べた。医療機関や福祉施設へ優先的に供給し、需要を満たせば市販する予定。藤居社長(51)は「おいしく飲める焼酎を原料にするのはもったいないが、役に立ちたいと考えた。地域のためになる活動を今後も展開したい」と話した。(山田志朗)